

日本での学校図書館関係教職員の 英語による専門学習ニーズ

ISLF 2018の事後調査を通して

中村 百合子 (立教大学教授)
森田 英嗣 (大阪教育大学教授)

はじめに

本稿では、2018 年度に 3 回にわたって日本国内で筆者らが中心となって実施した、International School Librarians' Forum of East Asia 2018 (東アジア国際ナショナル・スクールライブラリアンズ・フォーラム 2018; 以下「フォーラム」とする) を報告する。そして、各回の事後に参加者全員に対して行った、無記名でのオンライン調査への回答を整理し、日本における学校図書館関係教職員の英語による専門的な学習に対するニーズを議論する。このフォーラムと調査は、筆者らが科学研究費補助金(基盤研究 C; 2018-2020)を得て取り組んでいる「グローバル水準の学校図書館専門職養成カリキュラムの開発研究」の初年度のニーズ把握を主たる目的として実施した。なお、参加者のうち全回出席の家城清美氏、梶木尚美氏、中田彩氏には、事後の振り返りを執筆していただき、本誌に別に掲載しているのので、ぜひ参照されたい。

「グローバル水準の学校図書館専門職養成カリキュラムの開発研究」では、日本の教育改革において議論されてきている探究的な学習や主体的・対話的で深い学びの実現、言語力や情報活用能力をはじめとする各種リテラシーの育成に貢献する学校図書館専門職養成を実現する方途を明らかにすることを目指している。現在、教員免許更新制の対象外とされるなど、日本国内の教員養成の高度化の議論から学校図書館関係の教職員、つまり司書教諭と学校司書は取り残されている。また、学校図書館法に定められるその養成は、修士課程レベルが志向される先進諸外国の水準¹⁾にはほど遠い状況にあり、日本独自の養成にとどまっている。そうした“孤立”に問題意識をもち²⁾、本研究では具体的には次の二つのアプローチで、日本の教育改革に参画する学校図書館専門職の実現に向けて、その養成カリキュラムの検討を具体的に行う。一つめは日本国内の教員養成高度化との接続であり、もう一つはグローバル・スタンダードへの接近というアプローチである。後者のアプローチの一環として、まず、高度で専門的な内容に対する英語での学習ニーズの調査を国内で行うこととした。

1 フォーラムの概要

フォーラムは全 3 回で実施した。学校図書館関係の活動でつながってきた知人たちに協力を仰ぎ、ISLF2018 企画委員会を結成した。メンバーは、著者らの他、青山比呂乃・今井福司・塩谷京子・中山美由紀・庭井史絵となった(敬称略)。著者らが原案を提示し、このメンバーに相談しながら、まずは内容を決め、世界的な学校図書館研究のトレンドを考慮して、教員とのパートナーシップによる教授・学習支援プログラム; 読書教育プログラム; テクノロジーの活用とその利活用指導という三つの観点から、それぞれについて、ふさわしい講師を得たいと考えて、アジア在住で学校図書館専門職として活躍する方たちに依頼した。その後、各回のテーマを、講師と著者らで相談して設定されたのが次のプログラムで、これらをウェブページを作成して英語と日本語で告知して、先着順 20 名として参加者を募った。定員に限られることから、大々的な告知はせず、企画メンバーが関心をもちそうな知人らに個

別に知らせる方法で参加者を募った。

第1回 “Library as a hub of learning community”

日時：2018年6月2日(土) 10時00分～14時30分

会場：Yokohama International School Library

講師：Ms. Katy Jean Vance, Librarian, Yokohama International School

(講師略歴：元・英語教師。ノースカロライナ大学チャペルヒル校で図書館情報学修士号を取得後、ノースカロライナ州内のモンテッソーリ中等教育学校のライブラリアンを経て、現職)

第2回 “Strengthening students’ English skills through a reading program”

日時：2018年7月28日(土) 10時00分～14時30分(台風が近づいていたため、実際には少し早めに終了した。)

会場：関西学院中学部図書館

講師：Ms. Annie Tam, Head Librarian, The Independent Schools Foundation Academy

(講師略歴：メルボルン大学で教育学修士号、チャールズスチュワート大学で教育学修士号(ティーチャー・ライブラリアンシップ)を取得。香港やシンガポールの学校、図書館での勤務を経て現職。国際学校図書館員協会(IASL)の東アジア代表委員)

第3回 “Leading technologies in Education”

日時：2018年9月22日(土) 10時00分～14時30分

会場：大阪教育大学附属高等学校池田校舎図書館

講師：Mr. Bingqing, Zhao, Teacher Librarian, Keystone Academy

(講師略歴：香港大学で情報・図書館マネジメント修士号を取得後、上海、香港、現在の北京の学校に勤務。2018年8月までBeijing Royal Educationで、図書館長、メディアスペシャリスト、そして教科教員という三役で活躍し、現職)

参加者募集にあたっては、次の2点を「ご注意ください」として周知した。

①各回、東アジアの名門インターナショナル・スクールで学校図書館専門職として働く講師を迎えて、学生で学校図書館での勤務を将来のキャリアとして考える者や、すでに日本国内外の学校図書館で働く教職員らに対して、英語でワークショップを提供していただきます。立教大学司書課程登録学生等がボランティアとして言語サポートにあたりますが、英語の正規通訳は不在です。

②本フォーラムは参加費無料です。ボランティアの手と「グローバル水準の学校図書館専門職養成カリキュラムの開発研究」に対する科学研究費補助金によって実施します。各回終了後、参加された方に、メールで、同研究のための質問紙調査をお願いいたします。ご協力いただきたく、お願いいたします。

全回で、事前に講師からごく簡単な、ウォームアップのための宿題があった。当日の構成は、午前中は講師の実践紹介、講師の出身地域の動向紹介の講義で、午後は実際に手を動かすワークショップであった。講義部分を中心に、講師のスライドに沿って進められたので、後日、講師たちにはスライドシェアで、それを共有していただいた³⁾。ワークショップは、第1回は自分たちの学校図書館のための新しいプログラム計画(Programming Plan)を立てるといふ、小グループでのワークシートを使った作業(写真1参照)；第2回はPCを使った“Accelerated Reader”という多読と読書力向上に主として英語圏で人気のソフトウ

エアの体験とその教育活用の意義の検討；第3回は三つのアプリ（Kahoot!；Padlet；storyboard that）の紹介と三つの小グループに分かれてのその教育活用のアイデア交換であった。

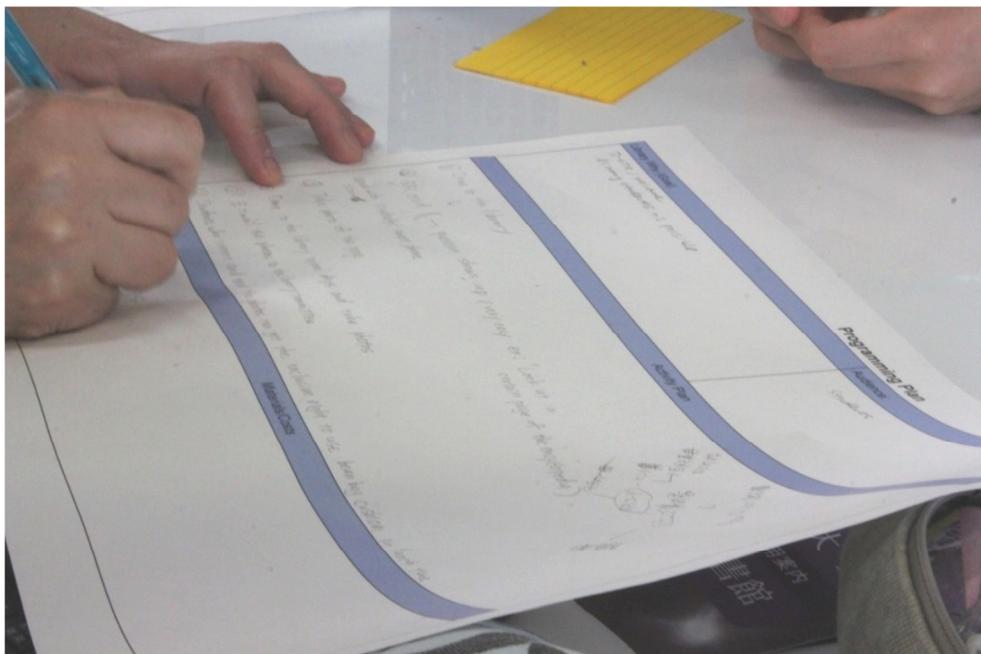


写真1 第1回のグループワークの様子

2 参加者に対する事後調査

2.1 調査方法

参加申込の際に届け出ていただいたメールアドレスに、ワークショップの直後に Google フォームによる調査への回答を依頼した。調査は1週間後を回答期限とし、1週間後に再度、メールによって調査協力を依頼し、その1ヶ月程度後には回答受付を完全に終了すべくフォームの公開を終えた。各回講師1名と著者ら2名は回答せず、表1のような回答者数となった。回答率は第1回が約95%、第2回が約82%、第3回が60%であった。無記名としたこともあり、前述のように、ワークショップ実施前に調査協力を強く要請していたにもかかわらず、回答率は100%とはならなかった。ちなみに、高校生と大学生・大学院生の遠方からの参加希望者で事前に指導教諭・教授からの相談があった者に対しては交通費と宿泊費を、調査への協力を条件に研究費より支払った。そうした参加者の回答率は高くなったはずである。

実施回	回答者数	参加者数	申込者数	回答者のうち 第1回参加者数	回答者のうち 第2回参加者数
第1回	21	22	25	-	-
第2回	13	16	21	7	-
第3回	15	25	26	6	4

表1 調査回答者数、フォーラム参加者数と事前申込者数

第1部、第2部、第3部に進む各段階で、ページが変わり自身のそれ以前の回答を見られなくなることを指してか、初回の回答者の中に「この回答方式は不便です？」ではじま

る強い抗議があった。回が進むにつれて回答率が下がったことは、Google フォームの利用によるのかもしれない。もしくは、質問が毎回、類似していたことで、飽きられてしまったということがあるかもしれない。

調査表は英語と日本語で書かれており、冒頭に次のように伝え、答えやすい言語で回答してくださるよう依頼した。自由回答は過半が日本語での質問であったが、講師への配慮が英語での回答も少なくなかった。第1言語が英語と思われる参加者は第3回のみ数名いただけであった。ちなみに、各回に対して、国外からも参加申込はあったが、当日、現れなかった。

Please take 10-20 minutes to complete this post-workshop survey. Your participation will help us build the future workshops/education programs on school librarianship in Japan. 10分から20分ほどお時間を取って、ワークショップ事後調査にご協力くださいませんか。日本における、学校図書館学に関わる、将来のワークショップや教育プログラムの開発の参考にさせていただきます。

If you feel more comfortable in Japanese, you could answer in Japanese. もし日本語で回答される方がしやすいようでしたら、ぜひそうなさってください。

If you have any questions, please contact Yuriko Nakamura (yurikon@rikkyo.ac.jp). Thank you so much for your kind cooperation. ご質問がございましたら、中村までご連絡ください。ご協力に心より感謝申し上げます。

内容は、第1部「About You あなたについて」;第2部「About the workshop on Month Day ○月○日のワークショップについて」;第3部「About the future learning opportunities 将来の学習機会について」であり、表2、表3-a、表3-b、表4に示すような構成とした。第1部「あなたについて」は毎回ほとんどが同じ質問であるが、第2回と第3回では過去のフォーラムに参加したかを尋ねた。第2部「○月○日のワークショップについて」は各回の講師の希望を取り入れながら、質問を決定したため、第1回と第2回では大きく質問が異なり、第2回と第3回はまったく同じ質問となった。第3部「将来の学習機会について」は全回ですべて同じ質問となった。

About you あなたについて	We don't collect any further personal information besides the following three questions. 以下の三つの質問の他には、この質問紙で個人情報を集めていません。	
	Q1 Have you attended the first ISLF workshop on June 2, 2018? 2018年6月2日(土)に開催された、ISLFの第1回のワークショップには参加されましたか。 (筆者注:第2回後と第3回後共通の追加質問)	選択式 Yes No
	Q2 Have you attended the second ISLF workshop on July 28, 2018? 2018年7月28日(土)に開催された、ISLFの第1回のワークショップには参加されましたか。 (筆者注:第3回後の追加質問)	選択式 Yes No

	<p>Q3 Please tell us your current job title. If you are a student, please tell us which level (high school / undergraduate /graduate). 現在のあなたの職名を教えてください。もしあなたが生徒・学生なら、高校生・学部生・大学院生のいずれかを選んで書いてください。</p>	自由記述式
	<p>Q4 Please tell us what age you are. あなたの年代を教えてください。</p>	<p>選択式 Teens 10代 Twenties 20代 Thirties 30代 Fourties 40代 (筆者注：英語は Forties のミススペリング) Fifties 50代 Sixties 60代 Seventies 70代 Above それ以上</p>

表 2 質問紙第 1 部の質問と要求した回答の形式

<p>Tell us what you thought about the workshop on June 2, 2018. 2018年6月2日のワークショップについての感想を教えてください。</p>	
<p>Q3 Were your expectations fulfilled? 期待通りだったでしょうか。</p>	<p>選択式 Yes はい Partially 部分的には No いいえ</p>
<p>Q4 Why did you select your answer above in Q3? 上記 Q3 の回答を選択した理由を教えてください。</p>	自由記述式
<p>Q5 Do you have any idea that the instructor (=Ms. Vance) improves the workshop for the audience, like those on June 2? If any, please describe. (筆者注：和訳が欠落)</p>	自由記述式

表 3-a 質問紙第 2 部の第 1 回後の質問と要求した回答の形式

<p>Please rate the following items from 1-5 for the workshop on July. 28, 2018, with 5 as the highest rating. 2018年7月28日のワークショップについて、5段階で、5が一番高いこととして、評価してください。 (筆者注：第3回後調査では、日付は英語・日本語ともに9月22日に改めた。)</p>	
<p>Q4 The instructor (=Ms. Tam) presented content in an organised manner. 講師は内容をよく整理していた。 (筆者注：第3回後調査では、()内は、=Mr. Zhao とした。)</p>	選択式 (5段階)

Q5	The instructor explained content clearly. 講師は内容を明確に説明していた。	選択式 (5段階)
Q6	The instructor helped me identify useful re- sources/methods I need to organize a Love of Reading Week and reading program. 講師は Love of Reading Week や読書プログラムを企画するの に有用な資料や方法を見つけるのを助けてくれた。 (筆者注：第3回後調査では、「The instructor helped me identify useful resources/ methods to prepare for the emerging trend of technology and education. 講師は現れつつあるテクノロジーと教育のトレンドに対して 準備するのに有用な資料や方法を見つけるのを助けてくれ た。」と尋ねた。)	選択式 (5段階)
Q7	The instructor encouraged you to ask questions and your participation. 講師はあなたの質問や参加を促してくれた。	選択式 (5段階)
Q8	How would you rate the overall effectiveness of the in- structor's teaching? 講師の指導の有効性全般について評価してください。	選択式 (5段階)
Q9	Please identify what you consider to be the strengths of the workshop. 今回のワークショップのよかった点があれば教えてください。	自由記述式
Q10	Please identify area(s) where you think the workshop could be improved. ワークショップについて、もっとよくできるという点があれば、 教えてください。	自由記述式

表 3-b 質問紙第2部の第2回後、第3回後の質問と要求した回答の形式

Q6	Regarding the official communication language on June 2 (=English), how comfortable were you be- fore/during/after the workshop? 本日の公式コミュニケーション言語 (英語) について、ワークショップの前後・最中にお いて、どのように感じていましたか。 (筆者注：日付は各回の日付を挿入した。)	選択式 Fairly comfortable 快適 OK (=not a big issue) 大丈夫 (言 語は大きな問題では無かった) A little bit uncomfortable 少し居 心地が悪かった Uncomfortable 居心地が悪かった
Q7	Why did you select your answer above in Q6? 上記 Q6 の回答を選択した理由を教えてください。	自由記述式

<p>Q8 Are you interested in learning together with other school librarians and students in the world IN ENGLISH to improve your knowledge and skills on school librarianship? 世界の学校図書館専門職や学生たちと“英語で”一緒に学び、学校図書館学に関する知識やスキルをのばすことに関心がありますか。</p>	<p>選択式 Yes, always いつでもそうしたい Yes, but occasionally たまにはそう思う No more 今回限りでよい</p>
<p>Q9 Why did you select your answer above in Q8? 上記Q8の回答を選択した理由を教えてください。</p>	<p>自由記述式</p>
<p>Q10 If you are positive about the future learning opportunities described in Q8 above, which ways do you like? Please select as many options as you think good. 上記Q8に書かれた将来の学習機会について前向きである方は、どのような方法を望んでおられますか。望む方法のすべてを選んでチェックしてください。</p>	<p>選択式 Face to face, one day (like on June 2, 2018) 実際に集まって1日で (2018年7月28日のように) Face to face, a series (like a semester course in universities) 実際に集まって、何度か続けて (大学における1学期の科目のように) Online, simultaneous, one day オンラインで、同期型 (同時に皆がオンラインする) で、1日で Online, asynchronous, one day (=more than a few hours) オンラインで、非同期で、1日 (2、3時間以上) で Another way (=if you have a new idea) 別の方法 (何か上記と違うアイデアがある) (筆者注: 第2回後と第3回後調査では、日付は英語・日本語ともにその回の実施日に改めた。)</p>
<p>Q11 If you choose “Another way” in Q10 above, please tell us what's your idea? 上記Q10で「別の方法」を選んだ方は、どんな方法を考えておられるか、教えてください。</p>	<p>自由記述式</p>
<p>Q.12 If you are positive about the future learning opportunities described in Q8 and Q10 above, what topic would you like to learn more? Please describe.</p>	<p>自由記述式</p>

上記 Q8 や Q10 に書かれたさらなる学習機会について前向きである方は、どんな内容についてさらに学びたいかを自由にお書きください。	
Q.13 Are there any other comments, ideas or suggestions you would like to share with us? その他に私たち、今回の企画者に対する、コメントやお考え、ご提案等ございましたら、ご自由にお書きください。	自由記述式

表 4 質問紙第 3 部の質問と要求した回答の形式 (Q の番号は第 1 回後のもの)

2.2 調査結果

本稿では、上述の、各回のフォーラムの事後に行った調査の第 3 部「About the future learning opportunities 将来の学習機会について」を中心に回答を整理する。

(1) 回答者の属性

回答者に「職名」を聞いた問への回答は、表 5 のとおりである。「その他」には、未回答 (NA)、不明瞭な回答 (「市職員」「講師」等)、ICT Specialist 等を含む。英語での回答は、school librarian は学校司書、librarian は司書、teacher librarian は司書教諭として集計した。学校図書館関係教職員の職名の日本語と英語をいかに翻訳するかについては議論の余地が大いにあるが、ここでは一般的に現場の職員が好んでいると思われる、文字どおりの翻訳を採用した。

第 1 回の参加者の顔ぶれから、「司書」と回答した人の多くはいわゆる学校司書と思われる。司書教諭の中には、専従と、担任や教科教諭との兼任の例が混在していると考えられる。第 2 回のみ、司書教諭の参加者が多かった。回答者の中心は、これら学校図書館関係教職員 (網掛けの部分) であった。ただし、司書・学校司書・司書教諭と答えた人の中に、大学の非常勤講師も務めている者が含まれている。

	第 1 回	第 2 回	第 3 回	合計
高校生	2	0	1	3
大学学部生	2	2	1	5
大学院生	2	2	1	5
司書	4	0	0	4
学校司書	2	2	3	7
司書教諭	2	5	2	9
大学非常勤講師	2	1	0	3
大学専任教員	2	1	0	3
その他	3	0	7	10
合計	21	13	15	49

表 5 職名別の回答者数

回答者の年齢は 10 代から 60 代の各世代に分かれた。最も人数が多かったのが 50 代であ

ったが、20代、30代の回答者も多かった。

	第1回	第2回	第3回	合計
10代	2	0	1	3
20代	4	4	2	10
30代	5	2	3	10
40代	2	2	2	6
50代	6	4	5	15
60代	2	1	1	4
NA	0	0	1	1
合計	21	13	15	49

表6 年代別の回答者数

(2) 公式コミュニケーション言語（英語）について

回答は表7のようであり、英語でのワークショップであることを申込時に伝えてあったため、ほとんどの参加者は問題ないと考えていた。第1回の講師はアメリカ合衆国出身で第1言語が英語である。第2回と第3回はそれぞれ、中華人民共和国（香港と中国本土）の出身で、第2回の講師はオーストラリア在住が長かった。回答の選択理由を聞いた続く自由記述の質問への回答を見ると、第1回については、特に後半で講師が早口になり難しかった、聞きとりよりも問題は発言、グループでの意見交換であったとの意見が見られる。聞き取りについては、概して、第2回、第3回の方が聞き取りやすかったようである。第3回には英語力の不足を認識してもなお参加してくださった方が2名いた。

	第1回	第2回	第3回	合計
快適	5	6	4	15
大丈夫	16	7	9	32
少し居心地が悪かった	0	0	2	2
居心地が悪かった	0	0	0	0
合計	21	13	15	49

表7 公式コミュニケーション言語（英語）

(3) 英語での学校図書館に関わる専門的な学習への意欲

「ワークショップを終えて、(日本を含み)世界の学校図書館専門職や学生たちと“英語で”一緒に学び、学校図書館学に関する知識やスキルをのばすことに関心がありますか。」という問への回答と、続けて聞いた回答の理由は表8のようであった。「たまたま」の回答を選んだ参加者の多くが、英語力の不足を認識に言及している。回答は、頻度についての回答ごとにまとめた上で、回答受付順に並べた。

第1回後回答	
いつでも	NA
いつでも	日本語の文献、日本人との情報交換からでは学べない他の文化に出会える。世界中に同じような志をもって頑張っている仲間がいる。国境をこえて、文化を

	こえて、一緒に図書館や教育について話ができる。
いつでも	次期学習指導要領が、より外国よりの探求型の学びが取り入れられており、日本ではなく外国の学校図書館からより学びをする必要性を感じるため。そのためには、自分がたまたまこの機会を知ったが、政府がある程度の予算をとり全国の学校図書館の形を整えて行きべきだと思う
いつでも	今回のワークショップがとても面白かったから。
いつでも	司書は常にスキルを磨くべき仕事と思うから。
いつでも	純粹に、学校図書館に興味関心のある日本以外の方々に出会ってみたいから。
いつでも	Because communicating in English is necessary to share problems globally.
いつでも	学校図書館は探究的な学習の核となる場所であり、先進的な取り組みを学ぶためには英語で情報を得る必要があると考えるから。
いつでも	普段あまり英語を使う機会が無いから。英語を勉強しようと思う動機にもなるから。
いつでも	今回の講演で日本の学校図書館は外国より遅れているというか、もっと外国からも良いところを盗めるので、その良さを取り入れていくためにも、海外の司書の方とももっと交流したいため。
いつでも	NA
いつでも	I think that it's an important thing to learn with other librarians. We should learn from those in the world too. I want to learn new ideas in English.
いつでも	I'm teacher of school library media specialist.
いつでも	Because I am working at IS.
いつでも	I have had such experiences in the past.
たまに	英語で学校図書館学について学ぶことに興味はありますが、非常に集中力がいるため。
たまに	自分の英語スキルがまだまだ低いため、いつでもとは言えない。
たまに	関心はありますが、職場の現状に即役立てることは出来ないのも、自分に余裕がない時期には難しいです。
たまに	学校図書館学のスキルが学校現場で活用できると考えるから
たまに	関心はあるが、現段階では自分にとっては領域が絞られ過ぎている印象を受けたため。
たまに	自分の語学力の問題だけが課題だが、テンポがよいと思った。日本語の固定観念のとらわれない学びができると思った。
第2回後回答	
いつでも	一步踏み出せる。これからも継続してやってほしい。
いつでも	海外の学校図書館の方が、全体的な学校図書館の役割が明確になっている気がするから
いつでも	個人的に英語を身につけたいと思っているから
いつでも	I found that the level of my knowledge and skills on school librarianship was far behind the international one.

いつでも	いつも考えている当たり前と違った視点で考えて、発見することができとても楽しいし、刺激になるからです。
いつでも	国内外を問わず、学校図書館について議論ができる環境があるとよいと思うから。
いつでも	もっと海外の取り組みを参考するべきだから。
いつでも	To share and exchange the information and skills is important.
いつでも	Otherwise, Japanese librarianship would be isolated or left behind the trends in the information technology areas
いつでも	NA
いつでも	進んだ取り組みの中に、学習者のスキルを上げるヒントがあるので、特に海外での教育には関心がある。
いつでも	I think that I should get more information about overseas.
たまには	学校図書館をどのようにしていくか、様々な選択肢が知れると思ったから
第3回後回答	
いつでも	自分が学校図書館でできることの選択肢を増やせると考えるから
いつでも	NA
いつでも	英語はそれほど大切だとは思わないが、海外の方とディスカッションすることは日本の学校図書館の発展に必ず役立つから。(英語の思考は良いと考えますが、韓国語や中国語やロシア語で話して頂き、日本語に通訳するのと私には同じに感じるから
いつでも	NA
いつでも	刺激的。新しい出会い。
いつでも	難解な英語でなくても、学べることは多いと感じたから。
いつでも	Because, the idea about education is coming closer all over the world .
たまには	日本の学校独自の課題もあり、そこを深めていける学校図書館の研修会も必要であると思う。なぜならば、やはり、学校図書館は日本の教育=授業に深く関わる場所であると思うからです。ただ、海外の実際の様子を知ることが大切であると思っている。
たまには	世界の学校図書館専門職や学生と情報交換できる機会は大変貴重だと考えます。
たまには	NA
たまには	やはり語学的な面が課題となるため
たまには	I think it's important for education and LIS in Japan to have a venue for profession development
たまには	意味を正しく知るため、日本語並記が欲しいため。
たまには	I want to learn but understanding English is difficult.
たまには	関心は非常にあるが、時期などによって難しいことがある。

表8 学習意欲にについての回答とその属性

(4) 英語での学校図書館に関わる専門的な学習の方法として望むもの

前の質問に続く形で、「将来の学習機会について前向きである方は、どのような方法を望んでおられますか。望む方法のすべてを選んでチェックしてください。」として、複数選択可として聞いた、将来の学習機会に望む方法は、今回実施したフォーラムと同じ「実際に集まって1日で」という形式は36回選択され、選択された全回答の42%に及んだ。「実際に集まって、何度か続けて（大学における1学期の科目のように）」も21回、選択された。実際に集まっての研修が望まれていることがわかる。一方で、オンラインで1日で（同期型、非同期型）はそれぞれ、14回、11回、選択された。ただし、全3回のフォーラムに複数回参加して調査に回答している者が表1に示したように存在しており、同じ人物が繰り返し同じ回答（もしくは異なる回答）を寄せている可能性がある。

将来の学習機会に望む方法	件数 (%)
実際に集まって1日で	36 (42)
実際に集まって、何度か続けて	21 (24)
オンラインで、同期型（同時に皆がオンラインする）で、1日で	14 (16)
オンラインで、非同期で、1日（2、3時間以上）で	11 (13)
別の方法（何か上記と違うアイデアがある）	4 (5)
合計	86 (100)

表9 全3回の調査での将来の学習機会に望む方法の総計

(5) 英語での学校図書館に関わる専門的な学習の内容として期待するもの

前の質問に続く形で、「さらなる学習機会について前向きである方は、どんな内容についてさらに学びたいかを自由にお書きください。」とした質問には、表10のように、極めて多様な回答が寄せられた。回答は、職名カテゴリ別に並べ替え、同じ職名カテゴリ内は調査への回答順で整理した高校生・学部生・大学院生は学生なりの視点でシンプルな回答が多く、実務者と大学での養成に携わる者たちは生徒・学生たちとは異なる視点から、もしくはさらに具体的に、学校図書館関係者間での議論のトレンドをふまえたような回答が寄せられたように見える。職名に対する回答の分析には前提として職名の翻訳の難しさがあって本調査では慎重になるべきだが、若干、司書や学校司書の未回答（NA）が目立つ。

第1回のみ、会場がインターナショナル・スクールだったことに刺激を受けてか、施設・設備やそのデザインに言及した回答が3件あった。また、IB（インターナショナル・バカロレア）と学校図書館の関係に関わる回答も2件あった。第2回は、読書教育プログラムに焦点をあてた回であったが、回答には、教科教育や教育課程全般との関わり、他の教員とのコラボレーションに関わる学習への希望を示す回答が多かった。第3回も同様に、他の教員とのコラボレーションへの学習意欲が示された。

第1回後回答	
高校生	高校生は実際にどのように何のために図書館を活用しているのか、多言語に対応した図書館、新興国の図書館状況、空間づくりやインテリアコーディネート(図書館という枠にとらわれず)
高校生	NA

学部生	東アジアだけでなく、欧州等の学校図書館学についても学びたいと思いました。
学部生	国ごとの教育や学校図書館の違い
大学院生	①学校図書館の施設・デザイン（建築）②実践の紹介（読書やそのほかワークショップなど）③探究学習（学びに特化したものがあれば）④過去にどのような課題や工夫があったのか、過程を知りたい。
大学院生	学校現場における図書館の具体的な活用（目指す・育成可能な資質能力も込みで）
司書	NA
司書	日本ではまだ一般的でないサービスや設備について。IASL で見聞したような内容。
司書	NA
司書	NA
学校司書	reading teacher について学んでみたい。
学校司書	I want to learn more about good ways to work together/ cooperate with other teachers.
司書教諭	学校図書館に関することなら何でも学びたい
司書教諭	例えば今回 6 月 2 日の回では、食べ物を図書館で食べて良いかなどの考え方が人によって違うことがわかった。このように、いくつか学校図書館員が日々選択に迷うことについて、討論 (affirmative side と Negative side) に立って今一度考える機会があると良いと思う。また、例えば IB の図書館で、Extend Essay という生徒が自由にテーマを選択して書く論文がある。この論文で取り上げられるテーマを各学校で共有することで選書に繋げる、など、日々の業務にいかせることを、感情論や事例発表に終わらず、討議をすることを望む。
大学非常勤講師	1. The school library management 2. The development of school librarianship.
大学非常勤講師	instructor の現在の学校図書館像を生んだ学びの軌跡。
大学専任教員	NA
大学専任教員	Improvement of school librarianship
その他	IBDP 校における科目「Theory of knowledge」と学校図書館との関わりについて学びたい。
その他	NA
その他	NA
第 2 回後回答	
学部生	海外の図書館にインターンしてみたいです、就活さえ被らなければ
学部生	他の実践を学びたい
大学院生	ライブラリアンの養成について。大学院レベルで図書館情報学を修めるとは、具体的にどのような教育が行われているのか。
大学院生	NA
学校司書	それぞれの学校に、例えば論文を書く為にメディアリテラシー教育を行うが、そこで挙げる項目が学校によって違う。学校に組まれているカリ

	キュラムの比較をし、メディアリテラシー教育に必要な項目を精査すること。/ 図書を使った activity (今回のペットボトルの activity など) の作成。
学校司書	読むスキルを書くスキルにどのようにつなげてあるのか? 探求的な学習の中で、表現していくことをどのように体系的に育てていくのか? 実際のプロセスに大変興味がある。
司書教諭	教科学習の授業デザイン。教科教員とのコラボレーション。
司書教諭	I'd like to learn how to improve the situations of school libraries in Japan.
司書教諭	校種の違いはあると思いますが、実際に授業(教育課程)にどの様に関わっているかを知りたいし、その資料の具体も知り(英語の資料も含め)いけんこうかんしてみたいです。
司書教諭	Collaboration between subject teachers
司書教諭	How can we implement Reading Programs and/or Research Skill Training program
大学非常勤講師	the condition about the school library and media specialist. The high level skill.
大学専任教員	NA
第3回後回答	
高校生	NA
学部生	NA
大学院生	海外の学校図書館学がどのようにさかん/さかんでないのかを知りたい。日本の事情も可能なら紹介したい。
学校司書	世界の学校現場で実際に導入しているメソッド教授法(読解力・集中力向上などの)について。
学校司書	NA
学校司書	NA
司書教諭	授業にどのように学校図書館は関わっているのか、いけるのか!
司書教諭	教科と図書館のコラボレーション
その他	学校図書館で身につく力の設定と評価。専門職の養成
その他	学校図書館のコレクションやレイアウトなど、オーガナイズについて
その他	LIS and it's Position in Japanese culture - historically, sociologically, professionally and so on. Also transliteracy and multi-literacy.
その他	アメリカの司書資格用の教科書があるなら、内容を知りたいです。論理的に、選書や図書館運営を知りたいです。
NA	ライブラリにおける様々なプログラム案を作成することなど
NA	I want to know how school libraries are used for learning.
NA	curriculum management between class teachers and media specialists.

表10 将来の学習機会に望む内容に対する回答とその属性

まとめ

本稿では、2018年に全3回で日本国内で実施した英語での小規模フォーラムの事後調査の結果から、国内での英語での学校図書館に関わる専門的な学習についてのさらなる機会提供に対するニーズを探った。事前に公式言語が英語であることに納得した参加者のみで実施したゆえか、英語での実施への違和感を表明した回答者は極めて少なく、また、将来の学習に対する期待も高かった。しかし、今回のフォーラムでは、調査への協力を前提に、参加費を一切徴収しなかった。参加前には交通費、時間、意欲、その他の個人的事情のみが問われた格好である。無料であることで、開催に対する感謝が調査の回答に影響を与えた可能性がある。

日本では、長年の市民運動が実る格好で2014年に「学校司書」が法制化され、日本の学校図書館業務を担う体制は世界に例の無い二職種制となった。学校司書については、文部科学省が2016年11月に「[学校司書のモデルカリキュラム]について(通知)」を発表し、養成に対する指針を示した⁴⁾。その養成の議論も学校図書館の現場も、現在は学校司書への対応に追われているように見える。一方で、本稿の冒頭でも述べたように、先進諸外国で先行する教育改革では、学校図書館専門職が果たすべき役割は大きいとされる。日本でもそのような新しい教育を実現し、真に学校教育改革を進めようとするならば、学校図書館専門職の養成の検討と実現は喫緊の課題である。英語でのフォーラム実施の後に実施した3回の調査では、さらなる学習に対して、異なる職名で働く参加者から多様な、しかしきわめて前向きな回答が得られた。先進諸外国の動向を踏まえた学習ニーズは、数は少ないかもしれないが、存在する。日本の学校図書館関係教職員の養成の高度化に対してさらに提案できることがあると思われた。

-
- 1) アメリカ合衆国で唯一の学校図書館専門職団体である American Association of School Librarians (AASL) がリーダーシップをとり世界的に情報発信をしている。日本語で書かれた主なものに、大城善盛・山本貴子『21世紀の図書館職員の養成：アメリカとオーストラリアを事例に』日本評論社, 2016, 193p.
- 2) 近年の学校図書館関係教職員の養成に関わる日本語の議論は、学校司書と司書教諭を分けたものがほとんどになって、国内に閉じている印象がある。一方で、国際的な視野をもち、その質の向上を議論したものに、三輪眞木子の一連の研究がある (Miwa, Makiko and Miyahara, Shizuko (eds.) *Quality Assurance in LIS Education: An International and Comparative Study*. Springer, 2005, 264p. など)。
- 3) [中村百合子] 「International School Librarians Forum of East Asia 2018 東アジアインターナショナル・スクール・ライブラリアンズ・フォーラム 2018」
<https://sites.google.com/rikkyo.ac.jp/islf2018>, (参照 2019-04-01).
- 4) 文部科学省初等中等教育局長 藤原誠 「[学校司書のモデルカリキュラム]について(通知)」 2016.11.29. http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/dokusho/link/1380587.htm, (参照 2019-04-1) .